



広報

かなぎ

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話☎2111 内線240

笑顔の先にあるものは...



1998
12

No.392

12月1日
「サンタ列車」出発式より

農林水産祭

内閣総理大臣賞

原田 僚さん(りんご)

日本農林漁業振興会長賞

蒔田むらづくり推進協議会

(むらづくり)

中央3賞

本年度の農林水産祭の中央三賞に、原田僚さん(中柏木)が園芸部門で内閣総理大臣賞(第二位)、蒔田むらづくり推進協議会(会長 加藤卓爾)がむらづくり部門で日本農林漁業振興会長賞(第三位)を受賞。天皇賞(第一位)には届かなかったものの、それぞれの部門で全国第二位、第三位に輝きました。厳しい農業事情の中で、将来を見据えた取り組みが認められたもので、受賞された方々はこれをステップとして、さらに努力していきたいと語っています。



▲妻みねさんと上京し、表彰を受けた原田さん。後方のリンゴは今年の新嘗祭に献上したもの。(明治神宮会館前にて)

大規模経営で

「原田ブランド」確立

原田さんは昭和二十一年に就農して以来、リンゴの栽培面積を三ヘクタールから県内でも最大規模の十二ヘクタールまで拡大するとともに、計画的に市場へ出荷して「原田ブランド」を確立しており、県内を代表するリンゴ大規模経営を実践しています。

栽培面では、全面わい化の無袋栽培、マメコバチによる授粉、摘花・摘果剤の利用などで徹底した省力化と低コスト化に努めているほか、有機質肥料を使用。また病害虫防除の面では園地の観察を徹底して行い、防除回数を県の基

準より三回少ない年十回に抑えるなど、環境にも配慮したリンゴ作りを行っています。さらに、金木町りんごを守る会の会長や県りんご協会の理

活発な活動で

「農休日」「給料制」を導入

蒔田むらづくり推進協議会は従来の水稲単作経営から、転作田を活用した夏秋トマトの産地化による複合経営への転換を図り、家族労働を有効に活用した生産性・安定性の高い農業経営を展開しています。

事として、栽培管理指導にあたり、わい化や無袋栽培を地域へ普及させています。

原田さんは「今までやってきたことが間違っていないかつたと認められ、うれしく思う。賞に恥ないよう、これまで以上に努力していきたい」と話していました。

また、各農協が連携して「津軽北部やさしい振興協議会」を設立し、統一ブランドでの販売を行ったことも野菜の産地化に大きく貢献しており、野菜の産地づくりに取り組みほかの地域の優良事例にもなっています。



▲受賞を喜ぶ加藤会長ら関係者。
ますますの活躍が期待されています。

一方、生活面では活発な婦人活動を原動力に「農休日」の導入をはじめ、県内では初めて集団での家族経営協定を締結するとともに、集落排水事業（下水道）の導入も決まるなど、農業に魅力を持って若者が喜んで就農できるような環境づくりに積極的に取り組んでいます。

加藤会長は「皆さんの頑張りが今回の受賞につながった。『何事もやる気がなければ成功しない』これを実践できた」と笑顔で話していました。



▶長年の功績が認められ
受賞を喜ぶ櫛引さん

▶人と人との交流をこれからも大切にしていきたいと語る阿部さん



阿部定一さん

法務大臣表彰（保護司）

更生保護に努めた功績で、阿部定一さん（芦野町）がこのほど、東京都で行われた式典で法務大臣表彰（保護司）を受賞。式典には、常陸宮殿下、同妃殿下も臨席していました。

阿部さんは、金木郵便局に在職中の昭和四十五年から保護司となり現在まで二十八年間、社会復帰を目指す人たちを手助けしてきました。受賞に対し「さまざまな交流により、その人が立派に更生した喜びはこの上ない。最高の賞をいただいた」と喜んでいました。

櫛引幸雄さん

県褒賞（消防功労）

平成十年度の県褒賞式が二月一日、青森市で行われ、櫛引幸雄さん（朝日町）が消防功労の功績で褒賞を受賞しました。

櫛引さんは、昭和三十三年に町消防団員になって以来、地域住民の生命、財産を守るため四十年余りの間、消防活動に努めて現在も町消防団長として活躍しています。

受賞決定後、木村知事が直接電話で祝福。「県の最高の賞をいただいて感激しています。今後、二百四十三人の団員とともに努力していきたい」と、褒賞と銀杯を手に決意を新たにしています。

ま
ち
の
ど
き
じ
り

◀「お仕事ご苦労さま」と
声を合わせる園児ら



金木幼稚園児役場を訪問

勤労感謝

勤労感謝の日に先立って十一月十三日、金木幼稚園（園長 片岡八千雄）の園児二十四人が役場を訪れ、鳴海町長と角田助役に花束などを送りました。

同園は二十数年来、勤労感謝の激励に役場のほか、町内の警察署や消防署を訪問して

います。園児らの元気な声が響き渡ると役場内の雰囲気も和らいで、訪れた町民からも笑顔がこぼれていました。

町長室で整列した園児が声を合わせ「毎日のお仕事ご苦労さまです。これからも体に気をつけてください」とあいさつ。鳴海町長は「皆さんのおかげで元気が出ました」とお礼を述べて一人ひとりにお菓子をプレゼントしました。

「サンタさんありがとう」

幼稚園児が一足早くクリスマス

かなぎサンタ・フェスティバル実行委員会（委員長 鳴海町長）で主催している「サンタ列車」が十二月一日、津軽鉄道（社長 三和満）で運行され、招待された五所川原幼稚園の園児たち四十二人が一足早いクリスマスを楽しみました。

目。五所川原駅ホームで行われた出発式では、園児たちがクリスマスソングのメドレーを鼓笛演奏した後、角田助役と三和社長があいさつ。園児を代表して山本健斗君が「サンタさん、世界中の子供たちのところへ幸せをいっぱい届けてください」とメッセージを読みました。

サンタ列車は今年で十一年



▲「わ〜い」サンタさんと一緒だ！

父兄らに見送られ、列車に乗り込んだ園児らはワクワク、ドキドキしながら「ぬいぐるみがほしい。楽しいゲーム機がほしい」などと、願いをカードに書き込んでポストに投函。そして、一人ひとりにサンタクロースがお菓子をプレゼントし、園児たちは大喜びしていました。



▶これで大丈夫と力を込めて縄を縛る養寿会の会員

金木老人クラブ養寿会

芦野公園の雪囲い

金木老人クラブ養寿会（会長 木村不二男）の会員がこのほど、芦野公園内のふれあい広場と子供広場にあるツツジやアジサイなどの植木の雪囲いをしました。

同クラブは毎年、春の囲い外し、秋の雪囲いと裏方なつて公園内の木々を守つてく

れています。例年のことはいえ、寒さが身にしみるこの時期に早朝から夕方までの時間、囲い板一枚一枚を丁寧に重ね合わせ、植木を傷つけないように気を配りながら作業を進めていました。

また、周辺の落ち葉の清掃なども同時に行いました。

◀ クライマックスでは
荒馬・太刀振り・獅子舞が
三位一体で演舞



東京ドームで

『荒馬』

披露

はじめに、正面玄関入り口で一回目の演舞。その後、ドーム内のメインステージ上で荒馬が披露されました。

文化観光立県宣言記念イベント「活彩あおもり大祭典」が十二月四日～六日、東京ドームで開催され、出演した金木さなぶり荒馬保存会（会長 徳田長弘）のメンバー三十人が雄姿を披露しました。保存会のメンバーは二ヶ月前から週二回程度の練習を積み重ね、本番に備えてきました。

電光掲示板に表示された“金木さなぶり荒馬保存会”の文字が「大きく光り輝いて見えた」と出演者の一人、勇壮な囃子（はやし）が鳴り響き、ステージ上を舞う太刀振り、獅子舞、そして荒馬。聴衆の喝采の中に感動してなのか、それとも“ふるさと”を思い出しているのか、涙ぐみながら拍手を送る人もいました。

『うめロマン』をPR

Ⅱ ストーブ列車 Ⅱ

味はいかがですか。

金木町梅加工組合（組合長 白川春雄）の組合員がこのほど、津軽鉄道のストーブ列車に乗り込み、町特産品の「うめロマン（果汁入り清涼飲料）」を観光客に振る舞いました。

昨年からの地元産の梅で作られている「うめロマン」を広く県外にもPRしたいと同組合では、津軽地方の冬季観光



の一つ「ストーブ列車」で車内サービスを行っている津軽地吹雪会（代表 角田周）に働き掛け、同会が快諾。乗車に訪れる県外からの観光客に白川組合長らが車内で試飲サービス。飲みやすさとさわやかな口当たりが好評を得て、さっそく買い求める観光客もいて、冬の津軽路をのんびりと列車に揺られながら、うめロマンを味わっていました。同組合では、来年三月までの間、定期的に試飲サービスを行うことにしています。

赤ちゃんかわいいね!

母と子のふれあいセミナー

金木南中学校（校長 小笠原勲）の全三年生七十一人が十一月十二日、中央公民館で行われた「母と子のふれあいセミナー」に参加し、妊娠、出産、育児などに対して理解を深めました。

今年で六回目となるふれあい体験学習は、昨年までは女子生徒だけで参加していましたが、男子生徒からの要望で今回は男女が一緒に母子とふれあいました。

この日は四ヶ月児から二才児までの乳幼児二十人とその母親を招いて学習会が行われました。はじめに、深浦町在住でヘルスデザイナーの田中幸子さんを講師に「性はいのち」と題した講話が行われました。田中さんは「望まれて生まれてきた命を大切にしたい。赤ちゃんの小さな命も皆さんの命と同じ命だから」と講話しました。



▲ 数年後の姿? 赤ちゃんをあやす男子生徒

この後、ふれあい体験学習となり八組に分かれて保健婦の指導で、一人ひとりが赤ちゃんを抱っこしたり、おむつ替えに挑戦。こわごと抱いたものの突然泣きだされたり、笑顔になつたり初めての体験に四苦八苦していました。お母さんたちに育児の苦労や楽しさなどを質問し、生まれる、育てることの大変さを再認識していました。

≡ 納税で豊かな社会 ≡

平成10年度 納税入賞作品

県納税貯蓄組合連合会主催の平成10年度納税作品コンクールがこのほど開かれ、県内六支部から作文、習字、ポスターの各部門に小学生一三、一二二点、中学生一、二七四点の総数一四、三九六点の応募がありました。

同連合会五所川原支部に応募した喜良市小五年の伊丸岡千穂さんと金木中三年の桑田萌さんが作文部門で金賞、金木南中三年の桑田萌さんがポスター部門で銀賞に輝きました。

また県内各支部の入賞作品の中から、小学生の作文部門で伊丸岡さんが見事金賞、中学生のポスター部門で桑田さんが佳作に選ばれました。

税金の事について

ついて



伊丸岡 千穂（嘉小5年）

私は、今まで「税金」という言葉を全く知りませんでした。けれども、学校で税金についてのビデオを見て、税金

は、身近なところでいろいろな事に役立っていると知りました。税金のしくみについて私は、疑問に思ったことが二つありました。どうして子どもが税金をはらわなければならないのかという事です。働いて、給料をもらってもいらないのに。私は、図書室でいろいろな本を調べてみました。すると、いろいろなことが分かりました。

例えば、税金は学校にある理科の実験道具、町の消防車、川の整備、私が使っている教

科書、ダムの建設など多くのことに使われています。税金のはらい方も人によってちがいます。サラリーマンの場合、月々の給料から所得税という名前で税金がさしひかれています。その税金を会社がまとめて国や県におさめているのです。個人の店や農業の場合、毎年ぜいむ署にかくていしんこくして所得税をおさめています。他にも、消費税というのがあって、前は三パーセントでしたが、何年かたって今では五パーセントになっています。私がお店屋さんでおかしやジュースを買った時に、はらっているのは消費税という名前の税金です。お父さんが買っているタバコやお酒にも税金が含まれていて、間接税とよばれています。

いろいろと調べた結果、税金は人によってはらい方がちがいで、いろいろな種類の税金があることに気がつきました。私は最初、どうして子どもが税金をはらわなければならないのかと思っていました。でも、ビデオを見たり、本で調べたりしていくうちに、だんだん分かってきました。私のはらっている税金は、お年よりのために使われています。日本は世界でも、長生きの国として知られています。お年よりの長生きすることは大変いいことです。でも、お金もかかります。子どもが今へつてきているので、これからますます働く人がへつてきます。そうすれば、税金はへつてきます。国で使えるお金もへつてきます。このような理由で、私たち子どもも、税金をはらうということが分かりました。これから私は、だんだん大人に近づきます。家の人は農業をやっています。今からたくさん農業のことを勉強して、大人になったら、家族で協力して家を守っていきたいと思います。農家の人がかくていしんこくしてはらう税金をしっかりとおさめて、世の中の役に立つように国や県や町の人に使ってほしいです。

最後に、税金は川のように一てき一てきと集まっていて、最後には大きな川になるものだということが分かりました。

納税について



田村 律子 (金中1年)

私は今まで、「税金」という言葉はよく聞いていたけど、何のためのお金かは、よくわかりませんでした。そこで、青森の市役所に勤めているおじさん(父の兄)に、税金についての本を送ってもらい、調べてみると、税金にも種類があって、一つ一つが大切な



桑田 萌 (南中3年)

税金は、若い人からお年寄りの方まで、みんなを支え合うもの。そんな思いで描きました。

意味をもっていることが、少しだけ理解できました。

はじめに消費税について調べてみました。お店などから物を買うと、決められている値段と5%のお金を支払うことになっていきます。その5%とは、消費税4%と地方消費税1%からなっています。消費税とは、商品やサービスの消費に対してかかる税金のことです。消費税は、いろいろな財政に使われています。税金は私が支払うものではないと思っていたけど、払っていることになっていて、少し驚きました。そして、税金がどんなことに使われているのか、少し調べてみることにしまし

た。

そこで、教育費について調べてみました。学校に通ってれば机やいす、理科の実験器具などに使うことになりま

かかっているなんて、はじめ

最後に社会保障関係費について調べてみました。使われているお金の半分は社会保険費です。社会保険費とは、病気やけがの治りようや、年金のために使われています。例えば、治りよう費が一万円かかるとしても、その時は三割(三千円)払い、七割は保険税で払われています。保険税は家の人が年何回かに分けて、払っているそうです。

金とかかわりをもっていかなければならないことが、少し

私は税金といっても、まだまだたくさん種類があるし、少ししか調べてないのでよくわかりません。でも、私たちが生活していくには、必ず税



こくみんねんきん

源泉徴収票が交付されます

国民年金、厚生年金保険から支給される老齢年金(国民年金の老齢基礎年金等)は、税法の上では雑所得とされ、所得税の対象になります。

この年金を受けている方には社会保険庁から、源泉徴収票が一月末日までに送られてきます。

年金以外に所得があったり、医療費等の控除を受けるため

確定申告をする場合には、この源泉徴収票が必要になります。

源泉徴収票が届かなかつたり、紛失したときには、再発行の手続きが必要になりますので、最寄りの社会保険事務所へご相談ください。

なお、障害基礎年金や遺族基礎年金は非課税ですので、源泉徴収票は送られません。

太宰をしのぶ ⑧ 金木町「太宰ゆかりの地」(7)

金木町太宰会々長
木下 巽

鹿の子川溜池

「翌日は前日の一行に、兄夫婦も加はって、金木の東南方一里半くらゐの、鹿の子川溜池といふところへ出かけた。」と『津軽』に描いています。これは、高長根に遊んだ翌日のことです。ここで注目したいのは、長兄文治夫妻が同行したことです。文治さんは来客のためおくれませんが、嫂はモンペに白足袋に草履といういでたちで出かれます。その途中で、「この邊が、大水の跡です。」とアヤは、立ちどまって説明した。…その前のとし、私の家の八十八歳の祖母も、とんと経験が無いと言っているほどの大洪水がこの金木町を襲ったのである。」と描いています。その前年の大洪水とは、昭和十八年七月十三日のことです。午後六時ころから降り出した雨は、未曾有の豪雨で、夜十一時ころには大洪水となり、金木川に沿っている町内の人々はそれぞれの高台に避難したとい



▲「津軽」執筆の際、長兄と一緒ピクニックした鹿の子瀧(写真提供) 原田和夫氏

うことです。なかでも田町、小川町、栄町、川端町、三軒町一帯はみるみるうちに泥水が床上にあがり、甚だしきは二階まであがるという大出水であったということです。また、金木営林署貯木場からヒバの丸太が何千石も流れ、下

蒼々満々と水を湛へている。この邊は、莊右衛門澤といふ深い谷間だったさうであるが、谷間の底の鹿の子川をせきとめて、この大きな溜池を作ったのは、昭和十六年、つい最近の事である。溜池のほとりの大きい石碑には、兄の名前

流の家に突入し、家を破ってまた流れるという、全く言語に絶する大洪水であったと郷土史に記録されています。「こんどは鹿の子川に沿うてしばらくのほり、…ちよつと右へはひつたところに、周囲半里以上もあるかと思はれる大きい溜池が、それこそ一鳥啼いて更に静かな面持ちで、

も彫り込まれてゐた。」現在、溜池のほとりに二基の石碑が建てられています。東側の石碑が当時のものです。正面には、「昭和十二年十二月起工、昭和十六年五月竣工」鹿の子川溜池」鹿の子川耕地整理組合」。碑陰には、評議員の中に津島文治の名もあり、昭和十六年八月建立となっています。

また西側石碑の正面には「築堤三十周年補強工事竣工記念」とあり、碑陰には「…幾度か旱害による危機を免れ得たことを思う時、築堤の想を練られた先輩各位に感謝し顕彰したい：昭和四十年十月建之」とあります。

鹿の子瀧

「水の落ちる音が、次第に高く聞こえて来た、溜池の端に、鹿の子瀧といふ、この地方の名所がある。ほどなく、その五丈ばかりの細い瀧が私たちの脚下に見えた。…右手には屏風を立てたやうな山、左手は足元から断崖になってゐて、その谷底に瀧壺がいかにも深そうな青い色でとごろを巻いてゐるのである。」と描きながら、ここでも兄を意識しています。「兄はピッケルを肩にかついで、ツツジの見事に咲き誇っている箇所に来るたんびに、少し歩調をゆるめる。」そして末尾の文章に、「兄は黙って歩き出した。兄は、いつでも孤独である。」と結んでいます。家長としての兄への心遣いと、畏敬の念が伺われます。

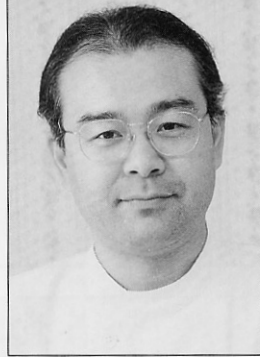
失敗談を語り皆を笑わせます。そこへ兄がピッケルをさげて現れます。そして皆で溜池の奥の方へ歩いていきます。「兄は、背中を丸くして黙って歩いてゐる。兄とかうして、一緒に歩くのも何年振りであらうか。十年ほど前、東京の郊外の或る野道を、兄はやはりこのやうに背中を丸めて黙って歩いて、それから数歩はなれて：私は：めそめそ泣きながら歩いた事があつたけれど、私は兄から、あの事件に就いてまだ許されてゐると思はない。一生、だめかも知れない。…」十年前のあの事件について、正面きつて兄に許しを乞うことができずにいる太宰さんが、読者にむかつてその複雑な心情を物語っています。

この「鹿の子川溜池」は、喜良市側から青森に山越えする道路(県道2青森・屏風山内真部線)の途中に見られます。更に、そこからおよそ五百メートル上流の幽谷に「鹿の子瀧」が、女性のようやさしい姿を見せてくれます。

金木病院カルテ 153

アニサキス症について

外科 佐々木豊明



皆さんは、「アニサキス」という名前を聞いたことがあるでしょうか？実は、この「アニサキス」というのは、これからの季節、特に気をつけなくてはならない寄生虫の名前なのです。

「アニサキス症」というのは、海産魚類（ニシン、サバ、タラ、サケ、イカ等）に寄生する線虫類の幼虫が、魚を生で食べることによってヒトの胃壁、小腸壁に穿入し、そのために急性胃症状、不定の慢性胃症状等をあらわし、小腸壁に穿入では急性腹症の症状が出現する疾患の総称です。

この「アニサキス」という虫は、本来クジラやイルカに寄生する虫なのですが、その虫卵がクジラやイルカの糞に混じって海中に排出され、その卵が動物性プランクトンに食べられ、さらにそのプラン

クトンをニシン、サバ、タラ、サケ、イカ等が食べ、これらの魚の体内で孵化した卵から幼虫まで成長します。（これらの魚の体内では、成虫まで成長できず、クジラやイルカの体内でないと成虫まで成長できない。）そして最終的に、

ニシン、サバ、タラ、サケ、イカ等を食べたクジラやイルカの体内で成虫まで成長するのです。

このように「アニサキス」の幼虫が寄生したニシン、サバ、タラ、サケ、イカ等を生で食べてから間もなく激しい胃部痛が出現するのが「アニサキス症」なのです。

「アニサキス症」には、「胃アニサキス症」と「腸アニサキス症」があります。「胃アニサキス症」は、タラ、イカ等の刺身を食べた後、数時間して食あたり症状が現れます。

これは、「アニサキス」がヒトの胃壁に食らいついて生じる症状であり、病院で胃カメラを施行してこの虫をつまみ取ればすぐに症状は、落ち着きます。

「腸アニサキス症」は、「アニサキス」が胃を通過し、腸にたどり着いて起こる症状で、一般に「胃アニサキス症」より激しい症状を訴えます。すなわち、急激な吐き気、嘔吐、腹痛、便通異常が出現します。

治療は、症状が落ち着くまで対症的に行います。どうしても症状が持続する場合は、外科的に炎症を起こしている部分の小腸を切除しなくてはなりません。

では、この「アニサキス」という虫は、どんな虫なのでしょう。日常最も目に付きやすいのは、ニシンだと思います。魚屋さんで数の子が入

ったニシンを買ってきたださい。そして、この数の子を縦に半分に分けてみてくだささい。そうすると、とぐろを巻いた白い糸ミミズのような虫がきつとみつかるとはまずです。

これが「アニサキス」です。採れたての新鮮なイカでもモゾモゾと動いているのが、よく見られます。

「アニサキス」という虫は、なかなか丈夫な虫で、ヒトの胃酸の中でもなかなか死にません。また、中途半端な冷凍でも死なないので（マイナス二〇℃以下でないと死にません）です。ですから、これからの季節、タラやイカの刺身を食べる機会が多くなり、急な腹痛で病院を訪れ、胃カメラで「アニサキス」が見つかることが多くなります。予防するには、タラやイカ、また、サケの刺身を生で食べなければ一番良いのです。でも、そういうわけにもいかないでしょうから、まず、食べる前に刺身をいったんマイナス二〇℃以下に凍らせたり、よく噛んで虫を粉々にしてしまえば良いわけです。

一般家庭では、食品をマイナス二〇℃まで冷凍するのは困難でしょうから結局は、よく噛んで食べることが大切です。

冬に採れる身の締まった新鮮な刺身は、本当に美味しいものです。この味を十分に堪能するためにも、この「アニサキス」という虫のことを頭の片隅にでも置いておいてください。そして、もし、不幸なことに食後の腹痛が生じた場合には、すぐに金木病院を受診してください。

写真をプレゼント

「広報かなぎ」をご愛読くださいます。読者の皆さんに感謝の気持ちを込めて、今年一年間（一月号～十二月号）の広報紙に掲載した写真を無料でプレゼントします。「息子が」「娘が」「孫が」「知人が」載っていた〇月号の〇ページと連絡くだされば結構です。

〈問い合わせ先〉

役場企画室 53-21111
内線 286番まで。

